死と法 (Legal Medicine)

【責任者/担当者】

〔法医学〕西尾 元 主任教授

【担当者】

〔法医学〕山本 琢磨 准教授、西口 美紀 講師

【目的】

臨床現場で必要となる法医学を身につける。

【科目キーワード】

「法医学(Legal Medicine)」「剖検(Autopsy)」「突然死(Sudden death)」

【到達目標(アウトカム)】

- 死後早期における死体現象について説明することができる。
- 死後硬直、死斑、体温の低下を参考に死後経過時間を推定することができる。
- 法医解剖を規定する法律名を述べるができる。
- 法医解剖と病理解剖の違いを説明できる。
- 司法解剖、承諾解剖、死因・身元調査法解剖の違いを説明できる。
- 監察医制度を説明できる。
- 人の死に臨んで異状死体かどうか判断できる。
- 医師法第 21 条に沿った適切な行動ができる。
- 医師法第 20 条のただし書きに沿った適切な行動ができる。
- 損傷を成傷器によって分類することができる。
- 表皮剥脱、皮下出血、挫創、伸展創、切創、刺創を区別することができる。
- 皮下出血の法医学的重要性を説明できる。
- 硬膜外出血、硬膜下出血、くも膜下出血の原因脈管名を述べるができる。
- 対側損傷が説明できる。
- 幼児児童虐待・老人虐待の種類を述べることができる。
- 幼児児童虐待・老人虐待が疑われた場合に適切に行動できる。
- 急死した遺体に見られる特徴的な所見を説明できる。
- 窒息の種類が説明できる。
- 頸部圧迫による窒息死を分類できる。
- 頸部圧迫による窒息死の特徴的な所見を説明できる。
- 定型縊死と非定型縊死の外表所見の違いとその病態生理を説明できる。

- 溺死の所見が説明できる。
- 乗用車と衝突した歩行者に生じる損傷を損傷機転の点から説明できる。
- 乗用車の着座位置による損傷の違いを説明できる。
- 焼死の生活反応を説明できる。
- 凍死の特徴的な所見とその病態生理を説明することができる。
- 内因性急死の代表的疾患を述べるができる。
- 死亡時に内因性急死を疑わせる状況となりうる外因死を述べるができる。
- 突然死の定義を説明することができる。
- 乳幼児突然死症候群(SIDS)を説明できる。
- Metabolic autopsy について説明できる。
- 一酸化炭素、有機リン、重金属などの中毒を作用機序から説明できる。
- 乱用薬物の薬理作用と関連法令を述べるができる。
- アルコールの吸収・代謝・中毒作用と関連疾患について説明できる。
- 法医学で血液型を扱う意義について説明できる。
- ABO 式血液型の判定方法を説明できる。
- 死亡診断書(死体検案書)を発行する目的を説明できる。
- 死亡診断書(死体検案書)を作成できる。
- 死亡診断書(死体検案書)の死因の種類を分類できる。
- 原死因と直接死因を区別することができる。
- 基本的な法医学に関する医学用語を英語で表記できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。
- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

法医学に関する講義を行う。死亡診断書(死体検案書)の作成に関する演習を行う。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

講義前に配布資料に目を通しておくこと(30分くらい)。

【成績の評価方法・基準】

筆記試験で評価する。

【学生への助言】

講義では配布資料以外に実際の解剖症例の画像などを示す。欠席すると機会を失う。

【フィードバック方針】

試験終了後に、問題ならびに正解を掲示もしくは配布する。

【オフィスアワー】

特に設定しない。希望者は、遠慮なく11階 法医学セミナー室に来てください。

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。講義中に紹介する。

【連絡先】

教育研究棟 11階 法医学セミナー室